

改訂版 : 基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) によるトランスクリプトを用いた研究方法(コーディングの仕方)2011年改訂版

宇佐美 まゆみ

目次

1. はじめに .....	2
2. 全ての発話文をコーディングする場合 .....	2
3. 分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合 .....	4
4. ライン中に分析対象とする要素が複数ある場合のコーディング .....	4
5. 引用部がある場合のコーディング .....	5
6. 記号凡例 .....	6

## 1. はじめに

本稿では、「基本的な文字化の原則(BTSJ)」によって文字化した資料を用いて行う研究の分析方法を説明する。BTSJは、その名の通り、「基本的な文字化の原則」であり、汎用性を念頭において構築された文字化のルールである。基本的には、「基本的な文字化の原則(BTSJ)」で記述した原則に沿って文字化するが、研究の目的に応じて、例えば、より詳細な音声情報を付与するなど、BTSJの原則を基本にしつつも、必要であれば、独自の記号を追加して対応することも可能である。ここでは文末のスピーチレベルと終助詞を例として、個々の研究目的に応じて分析対象をコーディングする際の工夫のし方を提示する。

コーディングとは、定量的な分析を行うために、会話の中にあられる形式や発話の機能など、研究者が分析対象とする項目を、記号化して入力していくことである。BTSJによるトランスクリプトは、発話文をコーディングの基本単位としている。そのため、発話文が終了していないライン（最後が「,,」のライン）は、コーディングの対象とはならない。その場合は、記入漏れとの混同をさけるため「-」（ハイフン）を入力する（表1のライン27）。

表1 BTSJのルールでは、コーディングの対象とはならない場合の例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末
26	25	*	B	そう…<です>{。}	P
27	26-1	/	A	<いや、>{今日から、夏休みじゃないですか,,	- ←
28	27	*	B	あー、<そうですねー>{。}	P
29	26-2	*	A	<子供たちは>{。}	P

また、聞き取れない部分が少しでもある発話文は、コーディングの対象とはしないこととし、コーディング列には、聞き取れない部分がある発話文を示す「#」を入力する。また、研究目的によっては、<笑い>のみで1発話文と認定されている発話文などのように、各研究者の判断によってコーディングの対象としない発話文もある。その場合は、各々の研究者がコーディングの対象としないと決定したことを示す「x」を入力する。

それぞれの記号の定義を以下にまとめる。

「-」	発話文が終了していないライン（最後が「,,」のライン）は、コーディングの対象とはならないが、記載漏れとの混同をさけるために「-」を入れる。
「#」	トランスクリプト中に、聞き取れない部分が少しでもある発話文に入力する。
「x」	各々の研究者がコーディングの対象としないと決定した発話文(例えば<笑い>のみで1発話文と認定されている発話文など)に入力する。

次に、「2. 全ての発話文をコーディングする場合」と、「3. 分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合」に分けて、説明する。さらに、「4. ライン中に分析対象とする要素が複数ある場合のコーディング」と、「5. 引用部がある場合のコーディング」について説明する。

## 2. 全ての発話文をコーディングする場合（文末のスピーチレベルのコーディングを例として）

例えば、全ての発話文の文末のスピーチレベルを、「敬体」、「常体」、「丁寧度を示すマーカーがない

発話」の3つに分類するとする。

ここでいう「文末」は、「です/ます」、「だ」のような、発話文末の最後の要素である。文末のスピーチレベルでは、文末に敬体（「です/ます」）があるか常体（「だ」）があるか、または、そのような丁寧度を示すマーカがないかをすべての発話文に、コーディングしていく。

以下の表2に、文末のスピーチレベルのコーディングの記号とここでの定義を記す。

表2 文末のスピーチレベルのコーディングの記号と定義

記号	スピーチレベル	定義
P	Polite form	あいさつ、及び、文末が「敬体（です/ます）」体やその活用形である発話文
N	Non-polite form	文末が敬体を含まず、常体やその活用形である発話文
NM	No Marker	文末に丁寧度を示すマーカがない発話文

次の表3に、「男性友人間の雑談の文字化資料」を用いて、全ての発話文をコーディングする場合の例として、文末のスピーチレベルのコーディング例を示す。

表3 文末のスピーチレベルのコーディングの例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	文末
45	45	*	M02	休みかー<笑いながら>>>〔独り言的に〕。	N
46	46	*	M01	<やっど>>>らん、やっどらん<笑いながら>。	N
47	47-1	/	M01	ちや、これから、これ終わったら(うん)とりあえず(うん)、コンビニ行って(うん)、おにぎり買って、	-
48	48	*	M02	うえー〔↑〕驚いた様子。	NM
49	47-2	/	M01	ヨーグルト買って(うん)、	-
50	49	*	M02	で〔↑〕、ジム?。	NM
51	47-3	*	M01	ジム=。	NM
52	50	*	M01	=あー、すんのかな=。	N
53	51	*	M01	=今日####すんのかな=。	#
54	52-1	/	M01	ちやう、<でもハム>>>、	-
55	53	*	M02	<うん、>>>しないつつとつたよ。	N
56	52-2	*	M01	もうね、ハムが切れそうだもん、今日、おれ。	N
57	54	*	M02	うん<笑い>。	NM
58	55	*	M01	あのねー、あのねー<軽<笑いながら>、あほみたいにペース速すぎ<軽い笑い>)なんだって。	N
59	56	*	M02	おれ、でも、全然まだいけたよ。	N
60	57	*	M01	ちが、ちが、ちが。	N
61	58-1	/	M01	おれは、練習したんだって、もう〔この間、M02は笑っている〕、	-
62	59	*	M02	<軽い笑い>。	x
63	58-2	*	M01	一通り。	N
64	60	*	M01	そんなに、もう、まじでへこんだわ=。	N

### 3. 分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合（終助詞のコーディングを例として）

終助詞は、すべての発話文に出現するとは限らない。終助詞についてコーディングする場合、「終助詞」というコーディング欄を設けて、終助詞が現れた発話文にその分析対象とする終助詞を入力する。ただ、BTSJのルールでは、コーディングの際には、入力漏れとの区別を明確にするために、空欄は設けず、全ての発話文に何らかの記号を入力することを原則としている。そのため、終助詞が使われていない発話文には、発話文の中に分析項目に該当するものがないことを表す「na」(Non Applicable)という記号を入力する。また、研究者がコーディングの対象とはしないと判断した発話文がある場合は、「コーディングの対象とはしない」ことを示す「x」を入力する。以下の例ではライン番号2の笑いのみの発話文がこれに相当する。

次の表4に、「初対面の会話の文字化資料」を用いて、分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合の例として、終助詞のコーディング例を示す。

表4 終助詞のコーディングの例

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	終助詞
1	1	*	JSM01	どうも、はじめまして。	na
2	2	*	JSM01	<笑い>。	x
3	3	*	JBF01	はじめくまして>{<}	na
4	4	*	JSM01	<「JSM01 姓」>{<}と申します>{<}。	na
5	5	*	JBF01	<「JBF01 姓」と申します>{<}。	na
6	6	*	JSM01	私はずっと東京生まれの東京育ちなんですよ<笑いながら>。	よ ←
7	7	*	JBF01	ええ。	na

### 4. ライン中に分析対象とする要素が複数ある場合のコーディング

研究者が扱う分析対象とする要素が、場合によっては、1発話文中、あるいは通常の1ライン中に複数現れることがある。複数の要素をコーディングするのに1つのセルしかないとは、コーディングができない。このような場合には、複数の要素を個々にコーディングできるように、各分析対象項目の後ろに「&」をつけて改行し、1つの要素につき1つのコーディングセルが割り当てられるようにする。つまり、「&」は、BTSJの本来のルールでは改行されないが、1発話文内の複数の要素をコーディングしたい場合に、便宜上改行することを示すものである。

ここでは、「&」を用いて便宜的に改行する場合の具体例として、あいづちのコーディングを取り上げる。あいづちについても、様々な観点から、個々の研究者の目的に応じた分析がなされ得るが、ここでは、その一例として、1発話文中に複数回現れることの多い「相手の発話に重なる短い小声のあいづち」を分析対象とする場合のコーディング例を提示する。

1ライン中に複数のあいづちが現れた場合は、1つのあいづちにつき1つのコーディングセルを割り当てるためには、あいづちが現れたところでそのつど改行する必要がある。その場合、あいづちの後に「&」をつけて改行する。改行した場合は、その発話文がまだ終了していないことを明示するために、ラインの末尾に「,」を付ける。本来は1発話文であるため、発話文番号は同じであるが、「&」をつけて改行された発話の順にそって、発話文番号に「-」をつけて、小文字のアルファベットを記す。この場合、アルファベットを用いるのは、複数ラインにわたる発話文番号の通し番号(以下の表5の53-1、53-2、53-3/54-1、54-2)と区別す

るためである。

表5に、「あいづち」をコーディングする場合の「&」の使用例を示す。

表5 コーディング項目が1発話文中や1ライン中に複数出てくる場合

ライン番号	発話文番号	発話文終了	話者	発話内容	小声のあいづち
53	52	*	F06	あたしルールわかんないけど。	na
54	53-1	/	F05	いや、〈だから〉&,,	-
55	54-1	/	F06	〈学校〉の,,	-
56	53-2	/	F05	3分‘ぶん’のなにか,,	-
57	54-2	*	F06	〈決まり〉&。	na
58	53-3	*	F05	〈決まって〉&てー。	na
59	55	*	F06	そうだよねー。	na
60	56	*	F06	困ったね。	na
61	57	*	F05	[息を吸い込んで]でもねー、やんなと思うんだ。	na
62	58	*	F05	だって、どっさり遅れてるからー(うん、うん)。	うんうん
63	59	*	F06	2対1なの?、じゃあ今。	na
64	60	*	F05	にいいち[2対1]。	na
65	61	*	F05	うん。	na
66	62	*	F06	授業参観、何言われた?〈笑いながら〉。	na
67	63	*	F05	えー、授業参観ねー、何かねー〈笑い〉、やだったのよ&2人で笑い)。	na
68	64	*	F05	あ、授業参観、なんか、2個あったじゃん。	na
69	65	*	F06	うん。	na
70	66	*	F05	校長と教頭のやつ。	na
71	67	*	F06	うん、わかんない。	na
72	68	*	F06	=2個あったの知らない。	na
73	69-a	/	F05	校長と教頭のやつは(うん)&,,	うん
74	69-b	/	F05	何事もなく(うん)&,,	うん
75	69-c	/	F05	その後なんにもフィードバックも(うん、うん)&,,	うんうん
76	69-d	*	F05	何にもなく(うん)、〈普通の〉&。	うん
77	70	*	F06	〈まー、形〉&だけだよ。	na

## 5. 引用部がある場合のコーディング

BTSJでは、発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合、その部分を“ ”でくくることになっている。この記号を利用してコーディングをする際の具体的な例として、文末のスピーチレベルの分析を紹介する。

会話参加者が発した発話文には、会話参加者自身や第三者の引用が含まれる場合がある。研究目的によっては、引用部は分析対象としないことも可能であるが、引用部をコーディングの対象とする場合は、主となる発話文のコーディングセルとは別に、「引用部」をコーディングするセルを別に設ける。

以下の表6に、文末のスピーチレベルを例にコーディングの例を示す。

表6に、「引用部」セルを追加した場合のコーディングのし方を示す。

表6 文末のスピーチレベルと引用部のスピーチレベルのコーディングの例

ライン 番号	発話文 番号	発話文 終了	話者	発話内容	文末	引用部
21	21	*	A	なんか、〈笑いながら〉“やはりちょっと進め方が違いな”という気がしました〈けど〉。	P	N

## 6. 記号凡例

これまでに提示してきたBTSJによるトランスクリプトを用いた研究方法(コーディングの仕方)に用いられる記号を以下にまとめる。

- 「-」 発話文が終了していないライン（最後が「,」のライン）は、コーディングの対象とはならないが、記載漏れとの混同をさけるために「-」を入れる。つまり「-」は、BTSJのルールでは、コーディングの対象とはならない発話文を指す。
- 「#」 トランスクリプト中に、聞き取れない部分が少しでもある発話文。
- 「x」 各々の研究者がコーディングの対象としないと決定した発話文(例えば〈笑い〉のみで1発話文と認定されている発話文など)。
- 「na」 発話文の中に分析項目に該当するものがない（つまり、分析対象が現れていない）発話文。